

ハダニ類の卵、幼虫、卵殻

高温少雨が続いていますので、全般的にハダニ類の発生が多くなっています。ここではルーペでは観察しづらい卵、幼虫、卵殻の画像を紹介します。殺卵効果の無いダニ剤の場合、発育中の卵も確認する必要があり、実際、卵や、孵化直後の幼虫とその卵殻ばかり見ることがあります。



ホウレンソウの症状です。葉面はカスリ状になり、葉脈間が黄化し、葉先から枯れ込んでいました。葉裏には、卵と幼虫が密に寄生していました。ハダニ類は脚が4対ですが、幼虫は脚が3対（6本）です。（ホウレンソウといえばホウレンソウケナガコナダニですが、高温に弱く、春先の発生で、成葉には小穴が生じ、展開中の葉は光沢のある奇形になります。）



スイカの症状です。圃場では葉枯れが目立ち、葉裏がカスリ状に白化していました。葉裏に、卵、孵化中の卵、孵化した幼虫、孵化後の卵殻など様々な発育初期段階のハダニが見られます。



カボチャの症状です。葉が退緑し、葉縁から枯れ込んでいます。卵、幼虫、卵殻が見られます。

今後も、果樹類、ダイズ、ナス、花木などで急増する恐れがあります。黄化葉、白化葉、葉焼け症状、葉枯れ症状などに注意して早期発見に努めてください。葉裏にセロハンテープを貼り付けて採取することによって、卵、幼虫、卵殻を容易に確認できます。馴れるとルーペでも確認できます。上の実体顕微鏡画像から、卵（透明球体です）と幼虫（白く見えています）を探してみてください。